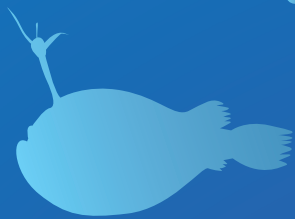
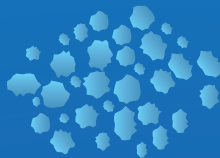


JAMSTEC

ECO-REPORT

2013

環境報告書 2013



獨立行政法人

海洋研究開發機構

Japan Agency for Marine Earth Science and Technology

JAMSTEC

ECO-REPORT 2013

CONTENTS

理事長ごあいさつ 1

環境報告書2013のご案内 2

○ 特集 環境変動の研究・観測拠点
「むつ研究所」 4

○ JAMSTEC TOPICS 2012 12

JAMSTECの概要 15

1. 事業概要
2. JAMSTECの研究・開発・推進事業
3. 組織構成
4. JAMSTECの拠点(事業所)
5. 研究船・探査機・施設設備
6. 経営指標
7. 沿革

環境に配慮する取組 27

1. 環境配慮のための体制
2. 委員会とその任務
3. リスクマネジメント
4. コンプライアンス(法令等の順守)
5. 事故・トラブルの防止と安全管理
6. 環境に配慮した調達・契約
7. いろいろな環境配慮活動

環境パフォーマンス 44

1. JAMSTECのマテリアルバランス
2. 主要なパフォーマンスデータの推移
3. 各拠点の環境パフォーマンスと取組み
4. 環境配慮活動の目標・実績・評価

研究・開発活動と社会貢献 51

1. 研究・開発事業の概要
2. 国際協力・外部機関との提携
3. 研究紹介
4. 社会貢献への取組み

環境コミュニケーション 60

1. JAMSTECのイベント
2. ハガキにかこう海洋の夢コンテスト

環境報告書の評価 62

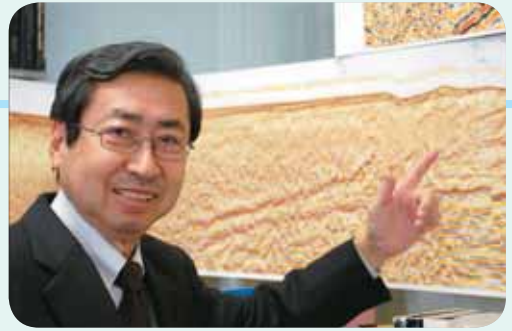
- ◇ 第三者による検証
- ◇ 第三者意見

○ 編集後記



ジャムステック・トリビア
JAMSTEC・TRIVIA
2013年のテーマ：横須賀本部の面白スポット

◇夏島 (P2)	◇高圧実験水槽 (P43)
◇對馬丸(つしま丸)と御製の歌碑 (P3)	◇ビオトープ (P53)
◇シートピア海中作業基地 (P20)	◇海洋科学技術館 (P54)
◇潜水シミュレータ (P39)	◇屋上 (P57)
◇模擬潜水船 (P41)	



私ども JAMSTEC は、海洋開発に必要な先端的な科学技術の研究開発を強力に推進するため、1971年に国や経済団体の要請に伴い、海洋科学技術センターとして発足をいたしました。

爾来、約40年間に亘る JAMSTEC の歴史を振り返ってみますと、JAMSTEC の黎明期と言える1970年代は潜水技術の開発が中心的な課題であり、長期間海中での居住や作業を可能とする飽和潜水実験「シートピア」計画を実施し、我が国の潜水技術の発展に大きく貢献をいたしました。更に、日本初の本格的な深海の有人潜水調査船である「しんかい2000」とその支援母船「なつしま」が建造されたのもこの時期であります。

1980年代から1990年代半ばにかけては JAMSTEC の技術開発が飛躍した年代であり、深度6,500mまで潜ることのできる有人潜水調査船「しんかい6500」が完成しました。また、深海の非常に厳しい自然条件の中で生息する微生物の研究が始まりました。

1990年代半ばからは、地球環境に関する研究が本格的にスタートし、海洋地球研究船「みらい」や海洋観測ブイによる観測、そして、当時世界一の性能を誇ったスーパーコンピュータ「地球シミュレータ」の完成に伴い、観測と予測という二つの側面から地球環境問題に対するアプローチが可能となり、IPCC（気候変動に関する政府間パネル：Intergovernmental Panel on Climate Change）による地球温暖化予測などに大きな貢献をして参りました。

現在ではこれらの研究・開発活動に加え、地球内部のダイナミクスの研究、生命起源の究明、地震・津波の発生メカニズムの解明と減災・防災への応用、レアアース等に代表される資源の探索、地球深部探査船「ちきゅう」による深海の掘削などを精力的に実施しており、これまでの足跡は JAMSTEC を日本を代表する海洋地球生命科学の研究機関として、その地位を確立させたものと自負しております。

一方、JAMSTEC は本年度第2期中期計画の最終年度を迎え、いわばこれまでの決算をすべき節目の年を迎えています。私どもは言うまでもなく公共の機関であり、その責務は研究・開発の成果を広く社会のために還元することにあります。そのためには、我々の活動に停滞することは許されず、社会の趨勢やニーズを先取りし、常に先見の感覚をもって目標を定め、業務に邁進していく必要があります。

そこで私どもは昨年、2008年に策定されたこれまでの「長期ビジョン」を見直して未来に向かう JAMSTEC の目標や使命を明確化するとともに、本年3月には JAMSTEC としては初めての国際的な助言委員会である「海洋研究開発機構アドバイザリー・ボード」の第1回会合

を開催し、海外の海洋研究機関のトップリーダーや専門家から様々な有益な助言を頂戴いたしました。

この会合で頂いたアドバイスの中に、目標の内容は良いがその戦略が明確でないというものがありませんでしたが、その戦略を練ることは、私どもが有する最大の課題として認識をしておき、研究・開発・管理のそれぞれの部門が有機的に作用し機能を果たしていけるよう、組織自体の見直しを行うなどの取組みを行っていく予定です。

さて、今回発行いたします JAMSTEC の環境報告書につきましては、今年で8回目の発行となります。環境報告ガイドラインが昨年改正されましたが、本ガイドラインの内容や、昨今の企業の環境配慮活動に関する動向から推察するに、環境に関する活動は、CSR（企業の社会的責任：Corporate Social Responsibility）活動の中の環境、サステナビリティ活動の中の環境という捉え方に推移しているものと思われます。本報告書では改正ガイドラインの内容を盛り込み、これまでの主として環境の側面を掲載して参りました報告書の内容をさらに拡充させ、コンプライアンス、リスクマネジメント、安全への取組みなど単に環境の内容にとどまることなく社会的な取り組みについても記載しております。

組織の運営はその組織が本来持つ主体となる業務に併せ、この CSR にも注力し、いずれも怠ることなく運営をしていくことが必要であります。

冒頭申し上げました通り JAMSTEC はこれまで培ってきた研究・開発という主体となる業務に関する継続的な推進・改善を行うことは勿論ですが、組織の品格とでもいべき CSR 活動の問題点についても抽出し、更なる拡充・充実を図ることも重要であると考えています。こと環境配慮活動という事柄に目を移せば、環境をマネジメントするという体制については未だ途上にあることは否めず、環境負荷を減らす組織運営の方策についても更なる追及が必要であると認識しています。

私ども JAMSTEC はこれらの課題に真摯に向き合い、名実ともに日本を代表する海洋の研究所として種々の社会的責務を果たすべく精進・努力して参りますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りたく、また広く皆様の忌憚のないご助言を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2013年9月

独立行政法人海洋研究開発機構

理事長 平 朝考

JAMSTEC ECO-REPORT INFORMATION

はじめに

JAMSTEC ECO-REPORT（独立行政法人海洋研究開発機構環境報告書）は環境配慮促進法の規定に基づき発行するもので、独立行政法人海洋研究開発機構（Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology: JAMSTEC / ジャムステック）の事業活動に伴う環境への負荷量や、その負荷を低減させるための取組みなど、JAMSTEC の環境パフォーマンスの概要をまとめた報告書です。

1年間に JAMSTEC がどれだけのエネルギーを消費し、どれだけの二酸化炭素を排出しているかなど、その数値を掲載するとともに、省エネルギーへの取組みを始めとする環境への負荷を減らすための活動などについてご紹介しています。

また、リスクマネジメントや安全への取組みなど一部社会的な活動の内容についてもご紹介しています。

<報告書の特徴>

◆ 研究・開発成果のご紹介

この報告書は環境パフォーマンスのデータを示すのはもちろんですが、最新の研究・開発の成果などもご紹介し、JAMSTEC の活動をより多くの皆様にご理解いただけるよう心がけて作成しました。

◆ むつ研究所のご紹介

青森県むつ市のむつ研究所は、海洋地球研究船「みらい」の母港としての運航管理業務や北太平洋における物質循環の解明などの研究を行っている研究所です。この報告書では特集として、むつ研究所についてご紹介しています。

◆ JAMSTEC についての豆知識をご紹介

『JAMSTEC・TRIVIA』というコラム欄を設け、JAMSTEC に関する豆知識をご紹介しています。今回のテーマは「横須賀本部の面白スポット」です。

◆ 冊子の作成と WEB による公開

多くの皆様に JAMSTEC を知ってもらいたいと考え、この報告書は冊子のほか、WEB 上でも閲覧できるように公開しています。

<編集の方針>

この報告書の編集に当たっては、以下の方針に従って編集を行いました。

◆ 対象組織

JAMSTEC の全事業所（横須賀本部、横浜研究所、むつ研究所、高知コア研究所、国際海洋環境情報センター、東京事務所）及び全研究船の事業活動を対象とし、記載しています。

JAMSTEC TRIVIA



1. 夏島

JAMSTEC の北側に隣接している小高い山が夏島です。雪が降っても積もらないということから名づけられたといわれる夏島は元々は島でしたが、大正期に埋め立てられ、以来陸続きとなっています。夏島にはかつて伊藤博文の別荘があり、この地で明治憲法の起草が行われました。また、大正に入ると横須賀海軍航空隊の基地となりその遺構が現在でも残っているほか、国内最古級の縄文時代の貝塚（夏島貝塚）もあり、国の史跡に指定されています。

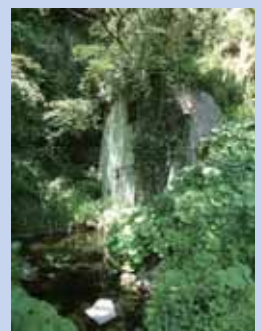
※夏島は立入禁止区域となっているため、立ち入ることはできません。



横須賀本部から見た夏島



明治憲法起草遺跡記念碑



所々に遺構が見られる

◆ 掲載した記事の対象期間

2012年度のデータを記載しています。

ただし、環境配慮活動などの取組については、日付を記載した上で一部最新の情報を記載しています。

◆ 記載した分野

JAMSTECにおける環境に関連した内容を記載しているほか、コンプライアンス、安全への取組みなど社会的な内容も記載しています。

◆ 発行年月日

平成25年9月30日

◆ 次回の発行予定

平成26年9月30日

◆ 作成に当たって準拠したガイドライン

環境報告ガイドライン2012年版（環境省）の発行に伴い、2013年度より当ガイドラインに準拠して作成することとし、報告書を作成しました。

◆ お問い合わせ先

アンケートをご用意しておりますので、この報告書のご感想・ご意見をお気軽にお知らせください。

独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）

安全・環境管理室

〒237-0061

神奈川県横須賀市夏島町2番地15

電話：046-866-3811（代）

046-867-9118

（環境報告書担当直通）

FAX：046-867-9105

e-mail：kankyo@jamstec.go.jp

JAMSTEC ホームページ URL

<http://www.jamstec.go.jp/>

環境報告書掲載ページ URL

<http://www.jamstec.go.jp/j/about/environmental/report.html>

ジャムステック・キャラクターズ



ロッキー



ニッキー



ウーラー



アンジー

JAMSTEC TRIVIA



2. 對馬丸(つしまる)と御製の歌碑

「對馬丸」は昭和19年8月、沖縄から本土へ疎開する797名の学童を含む1747名を乗せて航行中、鹿児島県トカラ列島沖でアメリカの潜水艦の攻撃を受け沈没し、学童738名を含む1508名が亡くなりました。

平成9年12月、JAMSTECの前身である海洋科学技術センターは政府の依頼を受け、深海調査船「かいれい」と無人探査機「かいこう」による海域の音響調査を実施し、悪石島沖の水深870mで船影を発見。次いで支援母船「なつしま」と無人探査機「ドルフィン-3K」のテレビカメラによる目視調査により、「對馬丸」の船体と船名を確認しました。これに際し、天皇陛下が御製を詠まれ、この御製を長く後世に伝え、捜索活動に携わった関係者の功績を称えるため、平成13年3月に歌碑が建立されました。

※犠牲者数などの人数は碑文の記載によります。

天皇陛下御製「疎開児の 命いだきて沈みたる 船深海に 見出だされけり」



御製を記した歌碑



JAMSTEC 独立行政法人
海洋研究開発機構
JAPAN AGENCY FOR MARINE-EARTH SCIENCE AND TECHNOLOGY

